

# 令和5年度第4回函館中央警察署協議会議事概要

## 1 開催日時

令和6年2月28日（水）午後2時00分から午後3時20分まで

## 2 開催場所

函館方面函館中央警察署3階大会議室

## 3 出席者

### (1) 協議会委員 12名（定員14名）

会長	千葉利隆	副会長	向井妙子
副会長	檜原永都子	委員	田名部まり子
委員	高橋哲郎	委員	石橋美栄子
委員	小野義則	委員	福川晃也
委員	阿部真奈美	委員	川又修治
委員	本谷文子	委員	藤田竜司

### (2) 警察署 7名

署長	高橋俊彦	副署長	相馬洋
刑事・生活安全官	船橋哲哉	地域官	齋藤雅治
交通官	生田直也	北斗交番所長	横田哲
警務官	千里和司		

## 4 函館中央警察署協議会会長挨拶

本年1月1日、石川県能渡半島を震源とする最大震度7の地震により、多くの死傷者と家屋の倒壊が発生し、大きく報道されています。

また、翌1月2日には、羽田空港滑走路内において、日本航空機と海上保安機の衝突により、乗組員5名が亡くなる事故が発生しております。

私たちも、いつ、どこで、事件事故の被害者になるかわかりません。

協議会を通じて、地域住民と警察が共通認識を持ち、より住みやすい街を構築するためにも、忌憚のない意見をいただき、活発な協議会になることを期待します。

## 5 函館中央警察署長挨拶

令和5年中及び令和6年1月末現在における当署管内の治安情勢についてご説明させていただきます。

刑法犯認知件数については、増加傾向にありますが、特殊詐欺については減少しております。

交通事故については、人身事故の発生が増加傾向にあり、昨年9月以降、歩行者被害の交通死亡事故の連続発生により、6名の方が亡くなっております。

今シーズンは非常に雪が少なく車両の運転がしやすいですが、今後、降雪による路面状況の悪化が予想されるため、ドライバーの皆様にはスピードダウンと慎重な運転を心掛けていただき、自転車乗車時におけるヘルメット着用の促進、歩行者事故につながる交通違反の取締り、交通啓発活動を推進していきたいと考えております。

引き続き犯罪や事故のない安全安心な街づくりを実現するため署員一丸となって各種対策に取り組んで参ります。

今後の警察活動に役立たせたいと考えておりますので、委員の皆様方には、忌憚のないご意見ご提案をお願いしたいと思います。

## 6 議事

### (1) 懲戒処分状況

- (2) 管内の治安概況の説明
- (3) 函館中央警察署の出来事
- (4) 薬物事犯の現状と対策について

## 7 委員からの要望・意見と警察の説明

委員 若年層による大麻検挙者が増加しているという話であるが、どのような者が検挙されているか。

警察 素行不良者ばかりではなく、一般の社会人や大学生なども検挙されている。薬物に対する有害性の認識を調査した結果、10代では約48パーセント、20代では約70パーセントで有害性がないと回答している統計があります。

要因としては、10代では、学校や家庭内における薬物に対する教育により、有害性の認識が高められたが、社会人となり、本人やSNSなどで得た薬物に対する情報で有害性の認識が汚染されることにより、都合の良いように解釈してしまうことが考えられます。

委員 小学校高学年から高校生まで幅広い若年層に薬物の怖さを認識してもらうため、関係団体と警察が協力して啓発活動をする必要があると思うがいかがか。

警察 中学校や高校に赴き警察による薬物乱用防止教室を開催しています。大学生における講話では高校生までの説明に加え、大麻等による薬理作用などを具体的に説明し、薬物に対する教育をしています。

薬物に対する認識の甘さについては、20代が突出しているため、社会人となり、薬物に対する認識がぶれることがないように、社会に出る直前に徹底した教育をする必要があると考えています。

委員 薬物事件検挙のきっかけはどのようなものがあるか。

警察 家族からの通報、周囲からの相談、警察による職務質問、補導活動など様々です。

委員 犯人が社会更生するためのプログラムはないか。

警察 覚醒剤は再犯率が高く、大麻は初犯率が高い傾向にあります。

大麻については、若年層の使用が多いため、検挙による処罰を受けさせることにより更生につながると考えています。

覚醒剤については、被疑者が高齢化しているため、検挙はもちろん、若年層とは別の方法で教育する必要があると考えています。

## 8 次回の開催予定及び議事について

- (1) 次回開催予定  
令和6年6月下旬を予定
- (2) 次回議事  
次回開催までに事務局で決定する